

平成 24 年度学生と知事とのトーク 【「みえの現場・すこいんかトーク」(特別編)】の概要

3月22日(金)にアスト津の交流スペースで「みえの現場・すこいんかトーク」の特別編として学生と知事とのトークを開催しました。

これは、平成25年2月10日に開催した「学生」×「地域」の取組事例発表会ベストプラクティスコンテストにおいて、当日の一般参加者による投票の結果、オーディエンス大賞を受賞した「生命のメッセージ展 in みえ」実行委員会への副賞として知事とのトーク券が授与されたことを受けて実施したものです。

当日は、「生命のメッセージ展 in みえ」実行委員会の皆さん11名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の学生の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 組織の問題があるようだが、「生命のメッセージ展」という名称を使用しての5回目の開催が危ぶまれている。自分達ではどうしようもないが、何らかの形で続けていけたらと考えている。
- この実行委員会は大学連合として、大学の垣根を越えて活動しているので他大学の同じ年代の友人が増え、違う活動を行うときにもここでのネットワークを活かすことができた。
- イベント時には、一人ひとりが自分のできることをやって、それを持ち寄って一つのことが出来上がるということを感じた。
- この活動を通じて命の大切さを学べた。
- 大学だけでは学べないことを自分で体験して学ぶ事ができた。
- 活動の中で学生が企業などに協賛金をお願いする電話をかけてもなかなか活動の

趣旨が理解されず、電話を切られてしまうことが多い。自分達の活動をもっと知ってもらえる場や周知できる場があればと思う。

- 活動を後輩へつなげていくことが課題。なかなか一人では飛び込むことに躊躇してしまう人が多い。
- 今回は、大阪の池田小学校の事件関係者をゲストに招いた。三重県でも学校の安全対策は重要だと思う。
- 子どもたちに命の大切さをどのように伝えていったらよいのかが課題である。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 活動を通じて、自分達の思いを見ず知らずの人にどう伝えていけばよいのかということを経験することも大切だと思う。行政がみんなの活動を多くの人に知ってもらうための手助けはできる。
- 子どもたちの安全確保は、学校だけに任せるのではなく、地域の人を巻き込んでたくさんの大人の目で見守ることが大切だと考えている。
- 子どもたちに命の大切さを伝えるために、大人が真剣に向き合ったら、子どもたちにはその思いがきっと伝わると信じている。
- 命の大切さについては、学校だけに任せるのではなく、家族や家庭の中で、子どもたちに伝えていく必要がある。
- 皆さんが頑張ってきたことが後輩達に引き継がれていくことを期待している。



【「生命のメッセージ展 in みえ」実行委員会とは】

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませ等の結

果、理不尽に生命を奪われた方々が主役のアート展です。三重県では、2009 年より、県内の大学から有志の学生が集まり、「生命の尊さや重み」を発信することを目的に活動し、四日市市、鈴鹿市、川越町とこれまで 3 回開催してきました。今年度は、3 月 3 日に亀山市文化会館中央コミュニティセンターにて開催したところです。

大学の垣根を越えて、県内 5 つの大学（皇學館大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿国際大学、三重大学、四日市大学）に通う大学生たちが有志で集まり、大学連合を組んで実行委員会を運営しています。